

令和6年度横浜市民まち普請事業 第108回部会 会議録	
日時	令和6年7月21日（日）10:15～17:30
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員）杉崎部会長、朝比奈委員、植松委員、川原委員、後藤委員、鳥海委員、肥後委員、松村委員 事務局）横浜市：古檜山、村瀬、安藤、石田、道明、今村 市民セクターよこはま：加世田、伊吾田、尾崎 横浜市住宅供給公社：岡部、田口、佐藤、土屋、高橋
開催形態	公開（YouTubeでのLIVE配信含む）
議題	令和6年度横浜市民まち普請事業1次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による提案発表を踏まえたポイント整理 4 審査方法の説明 5 公開議論・質疑 6 公開投票及び結果発表 7 講評
決定事項	2次コンテスト対象提案として以下の提案を選考 【整備提案名】〈提案グループ名〉 1 【熊野の森，子どもの居場所プロジェクト】 〈熊野の森，子どもの居場所プロジェクト実行委員会〉（港北区） 2 【あおぞら広場】 〈あおぞら広場をつくる会〉（金沢区） 3 【シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備】 〈二つ台みーとみーとPJ〉（保土ケ谷区） 4 【生き辛い世の中を生きる青少年のための居場所づくり】 〈弘明寺 チーム NECTA COLLECT〉（南区） 5 【集い・学び・楽しむ。カフェで助け合いの輪をつくる。】 〈いちょう坂商店街カフェ〉（港南区） 6 【多様な人々が共食で繋がる探求と表現の「まなび」の場】 〈子どもと大人のまなびば そらいろ〉（泉区） 7 【いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持】 〈師岡熊野神社「いの池」愛護会〉（港北区） 8 【子供と親を中心とした多世代が集える食堂&居場所】 〈鶴ヶ峰地域 café チーム〉（旭区） 9 【懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点】 〈パレット境木ベース運営委員会〉（保土ケ谷区） 10 【あつまれ！なみきの・みんなで・きずくみらい！】 〈『あつまれ！なみき』ワーキンググループ〉（金沢区） 11 【歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり】 〈生麦事件参考館リユースプロジェクト〉（鶴見区） 12 【あつまれ「アスレの森」】 〈「アスレの森」を残す会「あすのこ」〉（金沢区）

審査基準	1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ 2 意欲 ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲 ・整備の実現に向けて、住民参加や提案の精度を高める活動に取り組む意欲 3 公共性 ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度
選考結果	
選考団体（委員講評順）	委員講評
【提案名】 熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト 【提案グループ名】 熊野の森, 子どもの居場所プロジェクト実行委員会 【投票審査員数】 8 人 【得票数】 14 票	・住み開きだが、屋内だけでなく屋外もというところが大きな魅力。建物と通りの中間領域としての魅力を発揮していったほしいと思った。 ・ライフステージが変わっても中心部分は変わらずに活動していけるのではと、多様な顔ぶれから感じた。 ・住み開きをするマインドが伝播していくことが皆さんにできそうな期待があるので、その仕組み・仕掛けを2次に向けて考えてもらえるといい。
【提案名】 あおぞら広場 【提案グループ名】 あおぞら広場をつくる会 【投票審査員数】 8 人 【投票数】 12 票	・保育園が地域を巻き込んで大きなイベントを開催していることが素晴らしい。通常時や防災時のことを検討し、セキュリティの工夫もされていた。高齢者と子どもが接することのメリットをうまく取り入れながら、より工夫した活動としてほしい。 ・最近いろんなものを閉じて関わらない形にして自分たちで守っていくやり方が増えている中で、あえて開いていくというチャレンジングな企画だと思った。様々なアイデアも面白そうだが、それを考えていくプロセス自体を皆さんが前向きに進めていこうとするところが素晴らしいと感心した。 ・昨今の保育園はセキュリティ上、閉じる方向に考えがちだが、むしろ地域に開いて周りの目を入れることでセキュリティを確保とするという考え方が素晴らしい。 ・「人が関われる遊具が一つ増えた」というところに保育園側のスタンスが良く見えた。今後、人とのゆるいつながりを作ることにとどまらず、育てることが必要であり、その育てる仕組み・プログラムを2次までに考えてデザインもアップデートしてほしい。
【提案名】 シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備 【提案グループ名】 二つ台みーとみーとPJ	・現在 YouTube で行っている塾があるが、さらに地域交流と連携した場を作るとするのが令和の時代の居場所づくりだと感じた。子どもたちも YouTube の先生に実際にも会えて、楽しさの相乗効果が高まると思った。 ・担い手の顔がしっかり見えるプロジェクトであることと、そ

【投票審査員数】 8人 【投票数】 15票	れを支えている羽沢横国地域のまちづくりや、横浜国立大学の課題解決サークルのこれまでの実績や地域に応援されていることを評価した。地域の人が応援しやすい工夫があると万全な事業体制になると思う。
【提案名】 生き辛い世の中を生きる青少年のための居場所づくり 【提案グループ名】 弘明寺 チーム NECTA COLLECT 【投票審査員数】 5人 【投票数】 5票	・提案者である高校生が、地域のことを改めて勉強しながらやっていきたいと言ってくれたことは大きな一歩だと思った。2次コンテストまでのプロセスをしっかりと計画し、今まで出会っていない人と話し、あるいは応援団を集めるなど仲間を増やしながら活動してほしい。 ・高校生をまとめていく大人の担い手が見えていない。若者を巻き込んで小さな成功体験を作り、育てていく責任が大人にはある。お菓子作りが適切な活動なのかも改めて考えて、ハード整備が必要だと思えるような企画となるよう煮詰めて行ってほしい。 ・高校生たちが話した社会の課題はとても重く、とてもこのまち普請の事業一つやったところでは解決しないけれど、突破口とできるとよい。高校と豊かな商店街が近くにあるので地の利を活かしてほしい。
【提案名】 集い・学び・楽しむ。カフェで助け合いの輪をつくる。 【提案グループ名】 いちよう坂商店街カフェ 【投票審査員数】 6人 【投票数】 6票	・商店街の課題は十分理解できたが、解決策がなぜカフェなのか結びつかなかった。本当に必要なのはカフェなのか、カフェだとしたらどのように運営をしていくのか、だれが担うのかを明確にして2次コンテストに臨んでほしい。 ・これまでまち普請事業でカフェを整備したグループが多数あるが、すべて違うと思っている。ぜひいろいろな拠点に行って、いろいろな形を参考にし、自分たちがどのようなテーマのカフェをどのように運営していくのか、独自のアイデアを明確にして2次に臨んでほしい。
【提案名】 多様な人々が共食で繋がる探求と表現の「まなび」の場 【提案グループ名】 子どもと大人のまなびば そらいろ 【投票審査員数】 8人 【投票数】 13票	・イベントでは人が集まるが、継続して人を集めるにはどうすればよいか、人との集め方や声のかけ方を工夫して行ってほしい。 ・学びの場を作ることはとても大事な取組。どうやって多様な学びの場を作っていくのか、それを空間デザインにどう反映するのか今後具体化して行ってほしい。 ・近くの宮ノ前テラスでも同じように「面白い大人の背中を見せること」をテーマに活動しているから参考としてほしい。地域で盛んな学童保育の経験を、どう活動に活かすかも期待している。
【提案名】 いの池を中心とした地域資源循	・「いの池」愛護会は大変意義のある活動だと思う。現在の担い手から次の世代への継承という点でまだ弱くはあるが、次の

環システムの再生と維持 【提案グループ名】 師岡熊野神社「いの池」愛護会 【投票審査員数】 8人 【投票数】 11票	世代のやりたいことは見えているので、それぞれのやっていきたいことが、全員同じ言葉で語られるようになるくらいしっかり連携していけるようになると力強い活動になると感じる。 ・整備する水の循環システムを通して、水循環を良くすることと、池に堆積した泥土を畑や山に戻していくという物質循環を通してコモンズが再生され、さらにそれがコミュニティづくりにつながるというストーリーが見えると、人も自然も喜べるような豊かな可能性があると思った。
【提案名】 子供と親を中心とした多世代が集える食堂&居場所 【提案グループ名】 鶴ヶ峰地域 café チーム 【投票審査員数】 8人 【投票数】 13票	・いろいろな方の面倒を見ることはとても大変だと思ったが、提案グループの皆様が助産師さんや子育て経験者ならではの柔軟さを持っているので乗り越えられると感じた。2次コンテストでは具体的な整備のイメージを楽しみにしている。 ・コロナ禍を経て新たな場所で地域に根差した活動をするので期待が持てる。これまでの知見を活かして地域で活動を広げて行ってほしい。
【提案名】 懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点 【提案グループ名】 パレット境木ベース運営委員会 【投票審査員数】 7人 【投票数】 7票	・提案発表では場の必要性について疑問があったが、質疑の中で具体的なニーズやネットワークが既に広がっていて、マグマのようなエネルギーが溜まっていると感じられた。そこに拠点ができることによってさらに活動が広がっていくことが想像できた。2次コンテストに向けて計画をレベルアップしてほしい。
【提案名】あつまれ！なみきの・みんなで・きずくみらい！ 【提案グループ名】 『あつまれ！なみき』ワーキンググループ 【投票審査員数】 6人 【投票数】 6票	・プラットフォームを作って、運営するのは結局誰なのか。住民主体で回していく具体的なイメージをしてほしい。特に2次コンテストでは実現可能性や地域への発展性を伺いたい。 ・具体的に地域の誰のどんな声に答えようとしているのかが見えにくかった。広い場所が用意されていて、そこにどれだけ地域の人々の息を込めるかはこれからにかかっていると思うので、ぜひ具体的に地域の人たちの熱い思いを込めた提案を2次で出してほしい。 ・企業の方が中心に関わるのは、個人的にすごく応援したい。一方でこういう場合、企業として事業性のあるもののみやるとなると、まち普請事業としても応援しづらい。むしろ地域として必要な取組をしっかりとできるような仕組みになるよう2次コンテストに向けて整理してほしい。
【提案名】 歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり	・世界の歴史に残る出来事を市民の皆さんが非常に大事に、ある意味地域の資源として活用して地域づくり・まちづくりに生かしていくというところで、参考館を当初作った方の思いを大

【提案グループ名】 生麦事件参考館リユースプロジェクト 【投票審査員数】 6人 【投票数】 9票	事に引き継がれて展開されているという点で高く評価されたと思っている。市民運営だからこそその可能性をぜひ追及して、市民ならではの創意工夫あふれる取組をぜひ期待したいと思っている。 ・歴史でつなぐとか、多世代交流のまちづくりといったところへどう発展していくのかが見えなかった。2次コンテストではそこも提案してほしい。 ・行政は史実としてしっかりしたものしか語れないが、私設の資料館は思いを大事にできるので、重要だと思っている。「参考館を当初作った方の語りをしっかりと記録し」というところはすごく大事。今後皆さんが地域としてやるからには、プラスしてそれぞれの思いやエピソードの語りがそこに加わっていくことになる。そこに行政がやる資料館・博物館とは違う意味があると思っているので、そのところを失わないようにしながら頑張してほしい。
【提案名】 あつまれ「アスレの森」 【提案グループ名】 「アスレの森」を残す会「あすのこ」 【投票審査員数】 8人 【投票数】 13票	・応援団の子どもたちも含めて、熱意がとても伝わった。校長先生の「私一人がいなくてもどうにかなる地域ではない」という言葉もとても印象的で、地域と連携ができているところだと思った。一つ気になったのが、子どもたちにとっての「アスレの森」がこれから整備しようとしているものなのかどうかというところ。子どもたちが行きたいって言っていたものが実際に整備したらここじゃないという風にならないように、整備計画も子どもたちと一緒に盛り上がって楽しんで作ってほしいと思う。
資料 (資料 1) 令和6年度横浜市民まち普請事業1次コンテスト整備提案集	